

白石市で初出土の木簡について

担当：白石市教育委員会教育部生涯学習課

SIC 関連施設整備にあたっては、工事に先立って埋蔵文化財（遺跡）の調査を実施しています。防災公園しろいし整備事業においても、一部が遺跡の範囲内だったことから、発掘調査を実施しました。

その結果、白石市斎川の飯詰館跡の近くで掘立柱建物跡1棟が検出されました。この建物跡の詳細な調査を実施したところ、建物の柱穴から「木簡」が複数出土しました。これらの木簡はまじないの言葉が記された「呪符木簡」でした。

呪符木簡は何らかの祭祀にかかる遺物とみられ、溝跡などからの出土が多くありますが、今回のように建物跡からの検出は全国的に見ても大変貴重です。

そこで、関係各所と木簡の取り扱いを協議しながら今年度まで発掘調査を継続し、木簡の解読や出土遺物の一部に自然科学分析（放射性炭素年代測定）を実施しました。

この度、その成果の一部がまとったため、別紙により発表をいたします。

1 調査概要

遺跡名：飯詰館跡（宮城県遺跡地名表遺跡番号 02111）

調査地点：宮城県白石市斎川字中斎川地内

調査原因：防災公園しろいし整備事業

調査主体：白石市教育委員会

調査担当：白石市教育委員会教育部生涯学習課文化財係

調査協力：宮城県教育庁文化財課（令和6年度）

調査期間：[令和6年度]令和6年4月15日～令和6年12月18日

[令和7年度]令和7年4月21日～令和7年7月15日

調査面積：1,155 m²

2 木簡の釈読・内容に関する協力機関

宮城県多賀城跡調査研究所

3 木簡の記録・保存に関する協力機関

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

4 その他

現在、木簡は今後の保存に向けた保存処理中のため、令和8年度に一般公開する予定です。

お問い合わせ先
白石市教育委員会
教育部生涯学習課文化財係
電話 0224-22-1343（直通）

宮城県白石市で「木簡」が初出土!!

■「諸馬病氣」と書かれた まじないの木簡

- 防災公園しろいし整備事業に伴う発掘調査で飯詰館跡の近くから建物跡が発見され、複数の「木簡」が出土しました。
- 木簡には、まじないの言葉が書かっていました。
- 建物の柱穴にすえられた木簡は、全国的にみて極めて珍しいものです。
- 年代測定では、西暦1520年頃～1660年頃の数値が得られています。

※木簡:文字が書かれた木の板などの木製品



■建物跡の柱穴から多くの木簡を発見！



- ・建物跡の6つの柱穴と単独の穴1つから木簡が出土しました。
- ・調査時の状況から判断すると、オレンジ色のラインで結ばれた柱穴の全てに木簡が納められていたと考えられます。
- ・北東角の柱穴からは、桃の種も発見されました。

※ 桃 : 桃の木や実には呪力があると信じられており、鬼(疫病)を避ける力があるとされたことから、まじないなどに使われることがありました。

(符籙)「」□「」(符籙)急急□□令
〔如律?〕

※「急」は□偏



しょばぎょうきつくなり(まじない)きゅうきゅうによりつりよう
諸馬病氣付也(符籙)□明元日急急如律令

〔主?〕※「急」は□偏、「□明元日」まで符籙か



しょばぎょうきつくなり(まじない)きゅうきゅうによりつりよう
諸馬病氣付也(符籙)□明元日急急如律令

〔主?〕※「急」は□偏、「□明元日」まで符籙か



撮影 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
なお、木簡の内容は検討中のため、今後内容が変更される場合
があります。

■まじないの木簡「呪符木簡」

木簡には、「諸馬病氣」「急急如律令」とあることから、馬の病氣平癒を願つたものである可能性が考えられます。

まじないが書かれた木簡は、「呪符木簡」といい、県内の出土例としては、今回の飯詰館跡が8遺跡目です。

残りの良い木簡が多く、最も大きな木簡は、長さ37cm、幅2.6cm、厚さ6.5mmです。

戦国時代～江戸時代の初め頃にあたり、戦国武将が活躍した時代です。

※呪符木簡：何らかの信仰に基づいて用いられたとみられる木簡。ただし、ここでは梵字や経文のみを記したものは除いています。

※「急急如律令」：中国漢代の公文書の最後に「急いで律令のごとくに行え」という意味で添えられた言葉に由来し、「速やかに効果が現れますように」という呪文として日本で7世紀末以降から用いられています。

ふろく
※符籙：文字や図などを組み合わせた、まじないの記号。